

私は国際金融界のひとつの注目点として「米国金融当局がFRB・イエレン議長の言葉どおり、今年半ばに本当に利上げをして、金融引き締めを本格化するのか否か？」にあると見ています。

そして、日本、欧州、中国本土も金融緩和姿勢を強め、かつ、米国内の物価も低位安定する中で、実際に利上げをするか否かに疑問を感じている人も多いのではないかと見ていました。

しかし、いつもの為替のプロのご報告によると、今のところ、米国の予定通りの利上げを予測する見方は強いようです。

以下、ご参考までに、そうした見方を引用させて戴きます。 ご覧ください。

「先週金曜日に市場関係者がもっとも注目する米雇用統計が発表された。

非農業部門の雇用者数が29.5万人増となり、予想の24万人を大幅に上回った。

失業率は5.5%、2008年5月以来の低水準を記録した。

この結果を受けてFRBは次回(3月17-18日)のFOMCで利上げに向けたフォワードガイダンスのキーワードであるpatient(忍耐強く)という言葉の声明から取り除く可能性が高まった。現に、米雇用統計後にロイターが実施した米プライマリーディーラー(米政府証券公認ディーラー)調査によると、16社中9社がFRBによる6月の利上げ、15社が年内に2回以上の利上げを予想している。

早期利上げを見越した米ドル買いは継続するものとみられ、今週は昨年来高値となる121.86を目指す展開となろう。」

とのことで、予想が難しい国際金融情勢が続きそうです。

[今週のチェック・ワード]

[2016年の米国大統領選挙に関する共和党の動きについて]

私は、現在の米国はオバマ政権の影響から国際金融筋、国防相筋の影響が強くなり始めていると見ています。

そして、世界に於ける「米国の覇権」再強化に向けた動きを後押しするこれら勢力が、その意向に最も相応しい次期大統領を誰に定めていく事が良いのかも検討し始めていると見ています。

現与党の民主党では「ヒラリー・クリントン氏」が優勢と見られていますが、これを受けて立つ共和党は今も候補者が乱立しているようでありませう。

ここで、ロイターが見ている共和党の有力候補者を引用させて戴き、そのうちの何人かを眺めてみると以下ようになります。

「引用開始

1. ランド・ポール氏(51歳)

ケンタッキー州選出上院議員。出馬の可能性を示している。父のロン・ポール氏は共和党の大統領予備選に何度か出馬した。伝統的に共和党の支持基盤でない若年層や少数派などにもアピールしている。

2. ポール・ライアン下院議員(44歳)

2012年には共和党の副大統領候補だった。米金融業界からの支持が厚い。1999年から下院議員で、多くの政治評論家からは、同氏の野心は下院で存在感を高めることとの指摘がある。中間選挙では共和党の応援活動を行ったが、大統領選について具体的なことは言っていない。

3. ジェブ・ブッシュ氏（61歳）

元フロリダ州知事で、父は第41代米大統領のジョージ・ブッシュ氏、兄は第43代米大統領のジョージ・W・ブッシュ氏。移民や教育に関する政策で穏健的姿勢を示しており、共和党保守派からはさほど支持されていない。

4. テッド・クルーズ氏（43歳）

テキサス州選出の上院議員。ティーパーティーの支持を集めている。2013年10月には、オバマ大統領が実施を目指す医療保険改革法関連の予算が含まれている暫定予算案の成立を阻止しようと上院議場で長時間演説を行い、注目を集めた。

引用終わり」

そして、米国国内では、こうした候補者を含めて共和党の大統領候補者選びは既にかなり活発になっています。

このような動きを見て国際社会でも、第二次世界大戦後の世界秩序の大きな軸となってきた米国を中心とする世界体制の維持を期待する国では、共和党であれ、民主党であれ、とにかく、「強い米国」を象徴するような、「強いリーダーシップを持つ米国の大統領」の登場を期待する声が強いと思います。

そして、多分、日本も、また日本国民の多くもそれを期待しているのではないかと思います。

こうした中、米国・共和党の候補者選びの活動では、米国経済が一定の安定を示していることをも背景にして、「ISをはじめとする世界の過激派に対する米国の立ち位置」に焦点を当て議論することが目立ってきています。

「強い米国、強い米国大統領」を示すには格好のテーマであることから当然の動きであるとも思います。

ただ、私は一点だけ、これら共和党の大統領候補者たちが、「米国が、米国人がISに殺される前に、ISのリーダーを殺さなければならない。」という主旨の発言を、文字通り、「KILL!!」という単語を使いながら、国民に、そして支持者たちに極めて強烈に訴えている姿を見て、「頼もしさ」を感じる半面、「一抹の恐ろしさ、或いは品格は？」といった疑問も、正直を言って感じてしまっています。

力には力でしか対抗できないのでありましょうか？

世界は更に難しい状況に差し掛かっているのではないかと思います。

[台湾・中国・その他]

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾与党・国民党の朱立倫主席は香港を訪問し、現地で講演をしている。

現職の国民党主席が香港を訪れたのは今回が初めてである。

一国両制度を具現化している香港の現状を台湾与党のトップがどのような見方をして帰ってくるのか注視したい。

尚、朱主席は、香港にて、台湾国内の政治に関して、

「野党は政争に重点を置いた議論をしているが、与党は台湾の国家運営そのものを担っており、大きな役割を果たしている。」

との主旨の発言をしたと伝えられており、野党の動きを牽制する発言もした点、付記しておきたい。

[中国]

中国本土の共産党主導の国家運営体制にとっては、日本などの国会に相当する「全国人民代表大会（全人代）」での議論は極めて重要な意味がある。

こうした中、中国本土ではその全人代が開幕した。

開幕の冒頭、李克強首相は、

「2015年の経済成長率目標を7%前後にする。」

と表明している。

これは、3年ぶりに経済成長目標を下げ、また2014年の目標より0.5ポイント低い目標としたものである。

そして、習近平政権が示してきた、経済成長至上主義からの脱却を目指すことを改めて示したものであり、習政権自身が

「新常态（ニューノーマル）」

と名付ける状況を維持することを改めて示唆したものと見られる。

習政権が目指す、各種構造改革と安定成長の両立が達成できるのか否か、そして、その背後に見られる格差是正と不正・腐敗の撲滅がどの程度進展するのか、更には、その過程で見られるであろう政権闘争がどの程度となるのか、その中で、習政権が人民の目をどの程度外敵に向けさせてくるのか、そして、米中関係を如何に調整してくるのか、様々な変数があり、注視していく必要がある。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. アジアインフラ投資銀行の動きについて
2. 北京市の将来について
3. 日中韓FTAについて
4. 中朝関係について
5. 台湾、抗日勝利記念について
6. スリランカ情勢について
7. チベット問題について
8. 中国本土、海軍力強化について

—今週のニュース—

1. アジアインフラ投資銀行の動きについて

既存の国際金融秩序を変え、更に人民元の国際化を後押しすることに貢献する可能性もあるアジアインフラ投資銀行（AIIB）設立の行方が注目されている。

こうした中、中国本土の楼繼偉財政相は、中国本土が設立を主導する国際金融機関「アジアインフラ投資銀行」に、欧州の一部の国が参加するとの見通しことを示唆している。

AIIBの参加国は現時点で27カ国と見られているが、中国本土を含めたアジア太平洋地域や中東の一部の国が中心であり、これに欧州が参加すれば、上述したような視点から見ても、更に国際金融分野での中国本土の影響力が強まるであろう。注視したい。

2. 北京市の将来について

北京市の李士祥副市長は、北京で開かれた全国人民代表大会の分科会において、

「2020年の北京市内の人口を2,300万人以下に抑える方針である。」

と発表した。

更に、

「北京市の水不足は『南水北調』で緩和されるが、根本的に解決することはできない。」

とも述べ、都市としての北京の拡大の限界をも示唆している。

こうしたことを前提とすれば、今後は北京の都市の「質」での成長がどうなるのか、注目したい。

3. 日中韓 F T A について

中国本土の高虎城商務相は、全国人民代表大会に合わせて開いた記者会見の中で、日本、韓国との三国間自由貿易協定（F T A）について、「交渉をさらに加速させる。」との意欲を示した。

日中韓 F T A は 3 カ国の主張に差があり、その交渉が難航しているが、中国本土は韓国との 2 国間 F T A で合意、外堀を埋めたことから、今後は、日本を意識して攻め込み、日中韓 F T A 交渉に注力するという方針を取って内外に強調したと見ておきたい。

4. 中朝関係について

中国本土の王毅外相は全国人民代表大会（＝全人代）に合わせた記者会見に於いて、北朝鮮との関係についてコメントし、「正常な発展に向けて努力している。」と強調した。

筆者の認識では、韓国との関係を巧みに利用し、北朝鮮に対して目に見えぬ圧力をかけてきた中国本土に対する不満が出る形で北朝鮮は中国本土に対する態度を硬化させ、中朝関係は簡単ではない状況にあると思われるが、ここに来て、中朝間では水面下で関係改善に向けた動きが始まったと見ておきたい。

そして、観測情報によると、中国本土側は故・金日成元国家主席の生誕記念日（毎年 4 月 15 日となる。）に合わせた北朝鮮向け高官派遣を模索するなど、関係改善の具体化を図ろうとしているとも見られている。

北朝鮮の反応を、ここではより高い関心を持って、注目したい。

5. 台湾、抗日勝利記念について

台湾政府・行政院は、抗日戦争勝利と日本統治終了 70 年を記念する関連行事を 7 月から 10 月にかけて実施する予定である、と発表している。

特に、現在は、かつて国共合作で大日本帝国を中国本土から駆逐した国民党が政権与党であるだけに、こうした行事が、相対的には日本に好意的と言われている台湾で実施されても不思議ではないと見ておきたい。

6. スリランカ情勢について

筆者は、中国本土は、経済外交政策を強烈に推進、自国へのメリットが強い案件を優先する傾向が強く、純粋なる政府開発援助案件などは限定的ではないか、と見ている。

こうした中、スリランカ政府は、コロンボで中国本土がこれまで建設支援してくれてきた“港湾都市プロジェクト”の突然の中断を決め、工事を止めた、と報告している。

こうした背景には、シリセナ新政権が前政権の中国本土依存から脱却を図る動きを示したことに對する嫌がらせと牽制があると見られ、このままでは、新政権と最大援助国の中国本土との関係が冷え込む可能性もある。

しかし、これはまた日本を含むその他の国が改めてスリランカと接近するチャンスとも見られる。パワーバランスの中でスリランカがどう扱われ、また、スリランカ国民はこうした状況を如何に

捉えるのか、そして、そうしたことを受けて、スリランカ政府自身がどう動くのか、注視したい。

7. チベット問題について

中国本土には少数民族問題を含む地方と中央の様々な違い、格差などを背景とする課題が存在している。

そして、その一つが「チベット問題」である。

このチベット問題は、1959年にチベットの住民が中国本土の政治的統治を弾圧と捉え、これに抗議して武力衝突した「チベット動乱」から始まるとされている。

そして、そのチベット動乱から56年となった今年も、チベット亡命政府が拠点を置くインド北部ダラムサラで記念式典が開かれている。

引き続き動向をチェックしたい。

8. 中国本土、海軍力強化について

中国本土は、制空権ならぬ宇宙を意識した「制宙権」拡大に注力しているが、また、同時に制海権の拡大にも余念がない。

こうした中、中国本土系香港紙である香港商報は、

「中国本土・人民解放軍・海軍の首脳であり、政治委員を務めた劉曉江氏が取材に応じ、中国本土が進めているとされる“国産空母”の建造について“製造部門が行っている”と語ったと伝えた。

軍関係者が建造を公式に認めるのは初めてである。」

と報道している。

更に、技術担当の将官は国産空母の艦載機発艦装置について、

「我々の掌握している技術は米国に劣らず、さらに先進的である。」

との見方を示したことも報道されている。

中国本土の軍事的脅威は、着実に増してきていると見ておきたい。

[韓国]

—今週の韓国—

韓国自動車産業協会は、

「本年1月の自動車新規登録台数が前年同月対比5.3%増の17万7,807台となった。」

と発表している。

月次ベースで登録台数が17万台を超えるのは、2011年1月以来4年ぶりとなり、こうしたことから、「景気回復に向けて、良い兆しである。」との声も出始めている。

また、今回、注目されているのは、貨物車の割合が初めて14%を超えた点であると伝えられており、現代自動車の1トン小型トラックである「ポーター」が8,860台も売れ、乗用車ソナタの6,907台を上回り、車種別では販売が最多だった点が特筆されている。

また、同じクラスの起亜自動車のトラック「ボンゴ」も4,982台を売り上げ、8位に入っている。

今後の動向を注視したい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 北朝鮮情勢について

2. 造船業界動向について
3. 仁川開発とデュバイについて
4. LG化学、電池ビジネスについて
5. 三星電子、業況について

—今週のニュース—

1. 北朝鮮情勢について

北朝鮮の資金不足は顕著であろう。

また、その国際活動の中で必要な資金を資金洗浄しながら得ようと動いている国家の一つとも見られており、日本でも、北朝鮮と日本の間でのアサリ、ウニ、サルトリイバラ（柏餅を包む葉として主として輸入される）などの貿易取引は要注意品目ともなっている。

こうした中、バングラデシュ税関当局は、金塊や金の装飾品計約27キログラムを密輸入しようとしたとして、北朝鮮の男性外交官を首都ダッカの空港で一時拘束したことを明らかにしている。この税関当局のコメントを見ると、在バングラデシュの北朝鮮大使館第1書記官で、シンガポールから到着し、申告せず金を持ち込もうとしたとしている。

今のところ、個人的な動きなのか、国家としての動きなのか分からないが、北朝鮮の外交官のこうした動きは一応、注目しておきたい。

2. 造船業界動向について

韓国マスコミは、

「英国の造船・海運業界専門調査会社であるクラックソンは、韓国の造船業界は先月、中国本土と日本を抑え、船舶受注実績で世界首位を奪還したとの内容の報告を発表した。」と報道している。

即ち、これによると、先月の全世界の船舶発注量は118万CGT（標準貨物船換算トン数）、46隻となっており、昨年11月（103万CGT）以降では最低となっている。

こうした中、韓国の造船会社は全体の58.1%に相当する68万7,000CGT（21隻）を受注し、中国本土の38万6,000CGT、19隻、日本の8万5,000CGT、3隻を大きく引き離れたと報告されている。

外貨獲得源の一つである海外造船受注増は韓国にとっては基本的には朗報である。

3. 仁川開発とデュバイについて

アラブ首長国連邦（UAE）のデュバイは、36億米ドルを投資して、韓国の仁川にグローバル企業都市を造成する計画があることを発表している。

デュバイの都市発展の経験を生かし、外国にもその影響力を拡大したいというデュバイ側と外資導入を刺激に都市の再活性化を図りたいとする仁川側の意向が合致したものである。

具体的には、仁川市と、デュバイで政府系投資会社として活躍する、実績豊富なインベストメント・コーポレーション・オブ・デュバイ（ICD）が、仁川・コムダン企業都市造成のための投資計画を契約することになると見られている。

ICDはまずは投資意向契約締結を受けて、仁川市西区のコムダン地域1段階事業用地386万平方メートルに「フューチャー・シティー」を造成する計画であり、この「フューチャー・シティー」は、情報通信技術（ICT）やメディアコンテンツなどの先端産業と教育機関を結集した未来型の知識クラスター都市がイメージされている。

また、同都市の開発は、2003年にデュバイに造成されたグローバル企業都市「スマート・シティー」の開発方式と同様のやり方で進められる予定となっている。

日本の各都市もこうした開発の手法は検討する余地があり、筆者も三年前から中部地域の広域自治体にはこうした具体的な提言を行っている。

今後の動向をフォローしたい。

4. LG電子、電池ビジネスについて

韓国有数企業の一つであるLG化学は、中国本土のリチウムイオン2次電池分離膜メーカー最大手である深セン市星源材質科技（通称、深センシニアテクノロジー）と安全性強化分離膜関連特許の有償ライセンス契約を締結したと発表している。

同分離膜はLG化学が独自開発したものと伝えられている。

尚、世界のリチウムイオン電池の市場規模は、昨年時点では154億米ドル強に達すると見られており、LG化学は、市場規模の拡大を意識したライセンス・ビジネスを展開していると思われる。

5. 三星電子、業績について

韓国有数企業である三星電子は、同社の韓国国内での売上高が昨年は8年ぶりの低水準となる20兆7,289億ウォンとなり、前年対比9%減少したと発表している。

昨年はスマートフォンの戦略モデルである「ギャラクシーS5」が期待ほど売れなかったことや、携帯電話会社3社がスマートフォン購入時の過剰な補助金支給により長期間の営業停止処分を受けたことなどが、売上鈍化の一つの大きな背景と見られている。

尚、三星電子の総売上高のうち、韓国が占める割合は10%程度であり、米国を含めた米州が33%と最も高く、欧州の21%と合わせた欧米2地域で半分以上を占めており、これが堅調であれば、韓国国内の売り上げ鈍化の影響は軽微であるとされているが、その動向は注視したい。

[トピックス]

フランスはご存知のように、国土の広い国であり、また、「農業」が盛んな国でもあります。

首都はもちろん、ご存知、「パリ」ではありますが、私の少ない経験でも、フランスの各地には、個性のある「都市」が多く、一つ一つ、訪問すると、

「この町もいいなあ。」

「この町もいいじゃないか！！」

と思うところがたくさんあります。

そして、近くまで入ったことがあるものの、或いはその上空から見たことはあるものの、私がまだ行ったことのない町ではありますが、フランス人はもとより、欧州の人たちが良い町だというところのひとつに、「レンヌ」という町があります。

このレンヌ、ブルターニュ地域圏の首府であり、所謂、県庁所在地であります。

そして、ブルターニュは、「ワインの産地」の一つでもあり、イギリスのヘンリー四世は1403年、ブルターニュ公ジャン四世の未亡人であるジャンヌ・ド・ナヴァール妃と再婚しましたが、その再婚の一つの理由は、「美味しいワインをブルターニュから輸入したい。」というのが結婚の原点にある動機であったと言われるほど（但し、その後、実際には、ヘンリー四世とナヴァール妃は、国の境を超えて本当に愛し合ったとも言われていますが――、こればかりは、ご本人たちではないと分かりませんが）、ワインが美味しい地域であります。

ところで、レンヌは2つの川の合流地点にあったことから古くから発展していた町でもあり、ケルト系のアルモリカ王国から歴史上で紐解くことが出来、彼らはこの地を首都と定めた後、有名なモンサンミッシェルの湾まで領土を広げたとされています。

紀元前1世紀初め頃には、彼らはギリシャ、ローマの硬貨鑄造を採用し、金貨を特徴的な合金製ケルト硬貨として作ったりもしました。

こうしたものは、レンヌの博物館に代表的な収集品として収蔵されているそうです。

時代は下り、ローマ時代、レンヌもローマ支配の下に入り、町の戦略的位置は高かったと見られています。

そして275年、蛮族侵攻の脅威が背景となり、頑強なレンヌ周囲のレンガ造りの壁が出来た、ともされており、こうした歴史から、レンヌは、「赤い町」としても知られるようになりました。更に時代は下り、5世紀、ローマ帝国終焉の頃には、農民出身の略奪者たちの襲撃を恐れ、ブルターニュやレンヌを含むアルモリカ半島は、西ローマ帝国・最後の砦となりました。

だいぶ時代は飛びますが、1491年にはシャルル八世が率いるフランス軍は、将軍ラ・トレモイユに率いられレンヌを攻撃し失敗しました。

内紛で結束の弱まっていたブルターニュは既に各地で降伏する中、レンヌだけが抵抗を続けていましたが、ブルターニュ女公アンヌはフランス軍との交渉を選び、彼女とシャルル八世が結婚することで、ブルターニュはフランスの一部となることになったのであります。

女公アンヌはブルターニュの自治権を執拗に守りましたが、最終的には、このレンヌは実質的にはフランスへと併合されていったのであります。

更に時代は下り、第二次世界大戦の際、レンヌはドイツ軍の爆撃で激しい被害を受け1940年6月には、ドイツ軍がレンヌへと入城、更に、1943年3月と5月、1944年6月にレンヌは激しい爆撃を受け、レンヌがドイツ軍から解放された際、レンヌ市内には僅か100,000人の住民しか残っていなかったとされています。

それから後の1954年以後、レンヌは人口52万人以上に適応する都市計画に沿って発展し、今の姿になったと言われています。

当たり前のことかもしれませんが、フランスは昔から今のフランスであったわけではなく、レンヌのように様々な人、文化、歴史や産業が織り成されて、今日の姿を示しているわけであり、パリやリヨンなどともまた違うフランスがそこにはあり、様々な文化が入り混じった痕跡を残す、風俗や習慣も垣間見られる町であるようです。

今日は少し、友人たちから聞いた話を基にして、異国の町に思いを馳せてみました。

そしてまた、友人たちの勧めに従い、一度、このレンヌも訪問してみたいと思っています。

[今週の“もしも”シリーズ]

実際にあったお話を基にした事例です。

ある営業マンが若い開業医と赤ちゃんを含むその家族をアテンドし、自社商品のセールスを致しました。

もちろん、その商品は開業医に買って戴くことを想定したもので開業医自身に対するセールスではありましたが、この日はそのお客様自身が家族を連れてきたのであります。

そして、その商品の説明が終わり、

「今日は一旦、このまま帰る。」

と云うことで、そのお客様達がお帰りになることになりました。

その時です。

お連れになっていた赤ちゃんがぐずりはじめ、また、お客様は、

「今日は車で来なかったんだあ。」

と呟いているのを見兼ねて、この営業マンは、心から、その赤ちゃんとそれをあやすお母さん(お客様の奥さん)が大変だと思い、

「私が車でご自宅までお送りしましょう。」

と上司に断った上で、車を出してその開業医家族をご自宅までお送りしました。

その翌日です。

そのお客様から、

「昨日、君が送ってくれた際、トランクに積んだうちの高価なベビーカーが傷ついた。

ついては、新しいのを買って弁償して欲しい。」

とクレームの電話が入りました。

昨日、トランクにベビーカーを積み込んだのも下ろしたのもこのお客様自身、下ろしてベビーカーを確認していたはずなのに、この、クレーム。

困ったこの営業マン、上司に相談しました。

さて、皆様方は、「もしも」この営業マンの上司ならどうされますか？

こうしたお話の答えは多数あり、正解はなかなか無いのですが、実際のこの事例では、上司は、

「直ぐに会社のお金で弁償をなささい。

そして、その後、このお客様を顧客リストから外しなさい。」

と云う対応をされたそうです。

お客様商売、難しいですよね。

臨機応変な対応を必要とされる実社会ですね。

皆様方でしたら、どうされますか？

[英語で一言]

Legal judgement ,Business judgement=「法的視点からの判断」「ビジネス的視点からの判断」

この世の中は法治社会です。

そして、国際ビジネスの社会では、その法に違反することは当然にまかりなりません。

しかし、その法の解釈は難しく、必ずしも答えは一つとは限りません。

特に、国際ビジネス社会で、そのビジネス行為を契約書に落としていく際には、先ずは、法に触れるか否かを判断する「法的視点からの判断」を加えた上で、ビジネス的視点を加味しつつ、

* 法的視点から見れば、ここまでのワーディングでも十分かもしれないが、ビジネス的視点から判断して、より厳しい文言を契約作成時に文面として加える必要がある。

* 法的視点から見れば、ここまでのワーディングをした方が良いと判断されるが、個別のこの案件では、そこまでの厳しい文言を契約作成時に相手方には求めない。

といった、「総合的な判断」が求められることがしばしばあります。

法治社会、契約社会で生きる中、私達は、国際ビジネスをするに際して、常に、この法的視点からの判断、ビジネス的視点からの判断を意識しつつ、総合判断をしていく必要があります。

Legal Judgement Business Judgement:

We, all of us, are basically standing on the global society ruled by law. And whenever businessmen in the world are active in global business society, we must always follow the law and we can't break and/or violate the law and rules. However it isn't easy for us to interpret the law and/or rule itself and the interpretation is not always only one or true. Particularly in case of documentation for an agreement or contract, At first we should determine whether it violates law or not from the point of legal judgement and decide the original wording on the contract. After that we should check it from the point of business judgement also; For example, *Even the original wording may be enough judging from a legal viewpoint, judging from a business viewpoint, it is necessary to add severer words as the contents at the time of contract making. *The original wording may be better, but in this case it doesn't need to require such severe wording. And we make the final decision through the above mentioned process. We always have to be conscious of legal judgement and business judgement and after that we have to make a final decision.

[主要経済指標]

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／ 1, 124. 55 (前週対比-26. 05)

台湾：1米ドル／31. 60ニュー台湾ドル (前週対比-0. 16)

日本：1米ドル／ 121. 27円 (前週対比-1. 14)

中国本土：1米ドル／6. 2614人民元 (前週対比+0. 0028)

2. 株式動向

韓国 (ソウル総合指数)：1, 970. 59 (前週対比-42. 35)

台湾 (台北加権指数)：9, 596. 00 (前週対比-49. 77)

日本 (日経平均指数)：18, 991. 11 (前週対比+20. 11)

中国本土 (上海B)：3, 349. 323 (前週対比+100. 847)

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光